

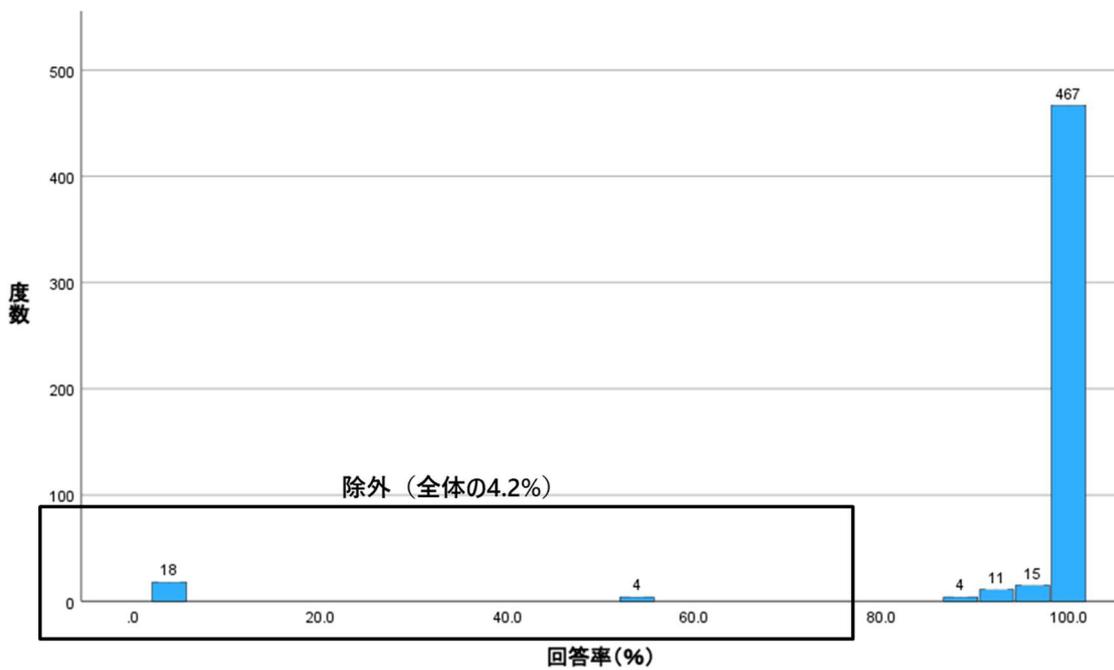
2024 年度 卒業生アンケート
「東京女子大学の教育ならびに卒業生の就業状況に関する調査」
集計結果報告

2026 年 3 月
東京女子大学 自己点検・評価委員会

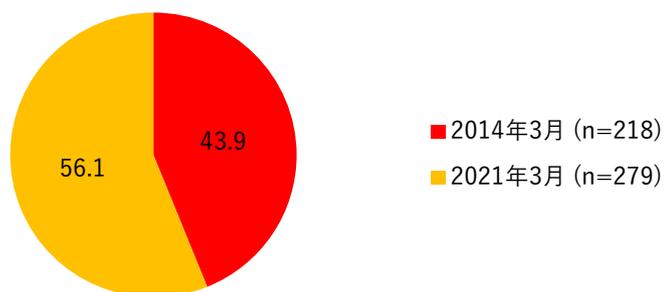
調査概要

- ・ 目的：卒業生を対象に、本学での学修の成果や卒業後の就業状況について尋ね、今後の教育の向上や改善につなげていく
- ・ 方法：Web 調査
- ・ 調査対象者：1583 名（内訳：2014 年 3 月卒 676 名、2021 年 3 月卒 907 名）
- ・ 調査実施期間：2024 年 12 月 21 日～2025 年 2 月 13 日
- ・ 回答者
- ・ 有効回答者数：497 名（内訳：2014 年 3 月卒 218 名、2020 年 3 月卒 279 名）
 - 重複回答（10 名）を除外
 - 有効回答率が 8 割未満のもの（22 名）を除外（図 1）
- ・ 有効回答者率：31.4%

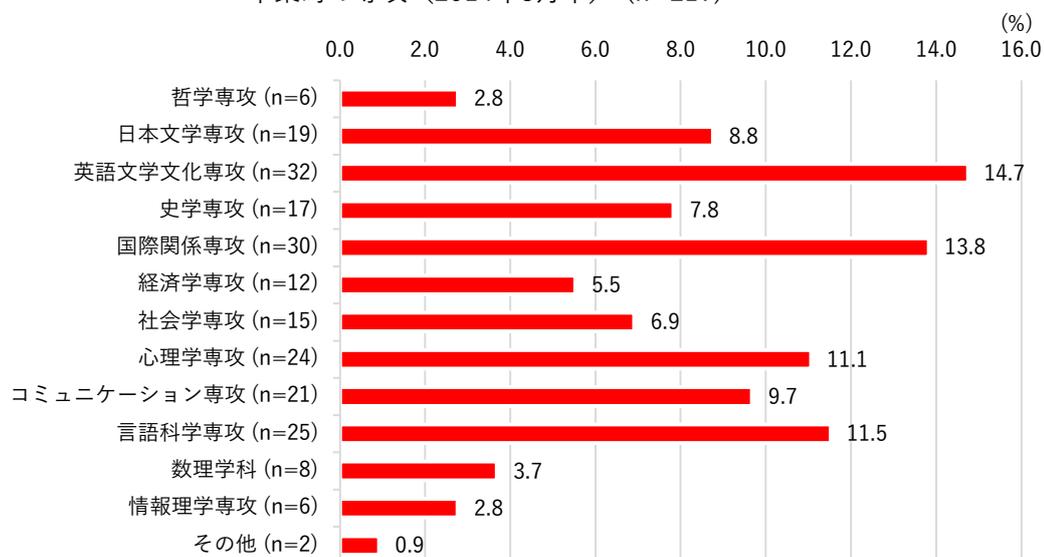
図 1 2024 年度卒業生調査(有効回答分布)



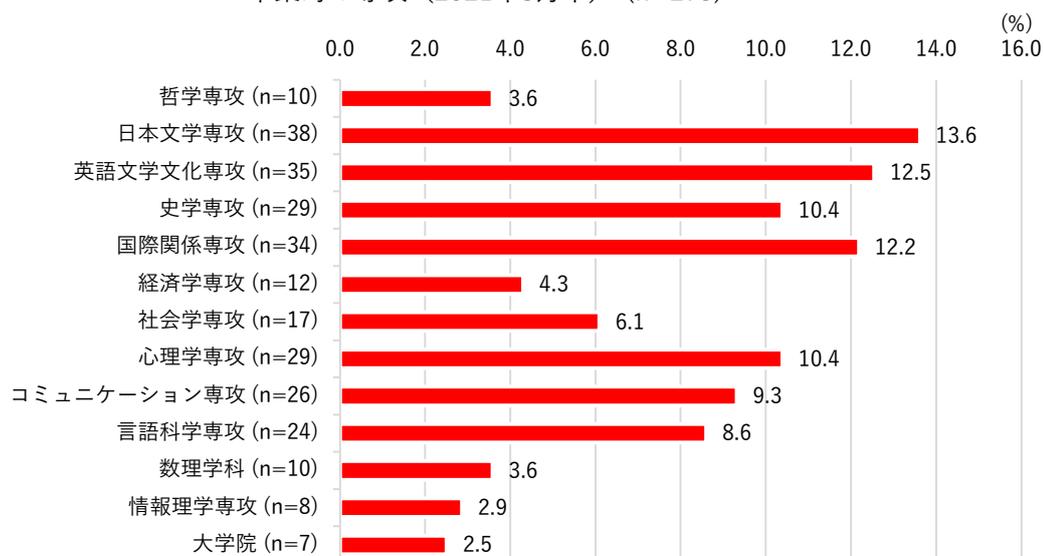
卒業時期 (n=497)



卒業時の専攻 (2014年3月卒) (n=217)



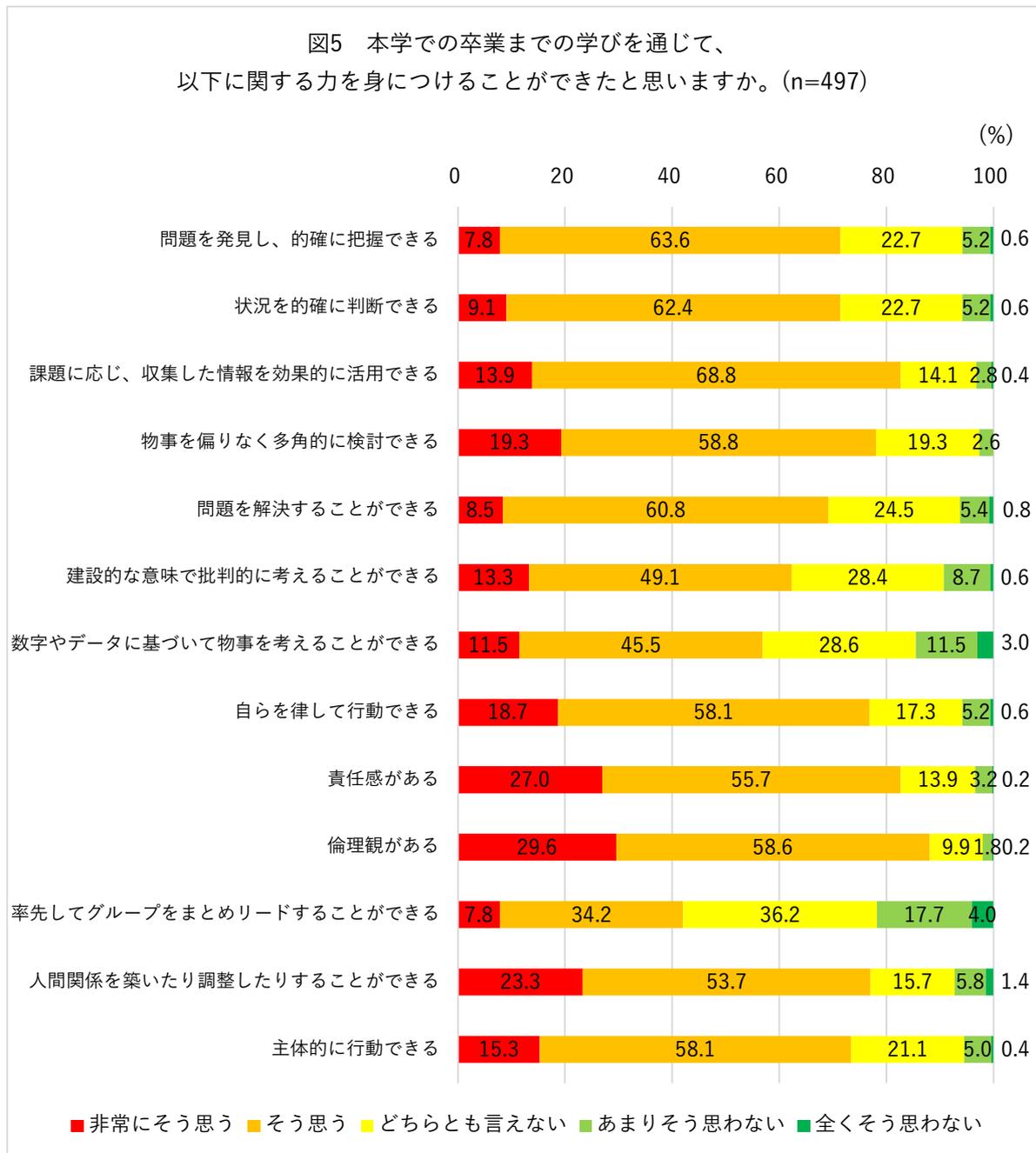
卒業時の専攻 (2021年3月卒) (n=279)



調査結果

1. 身につけることができたと思う力・スキルについて

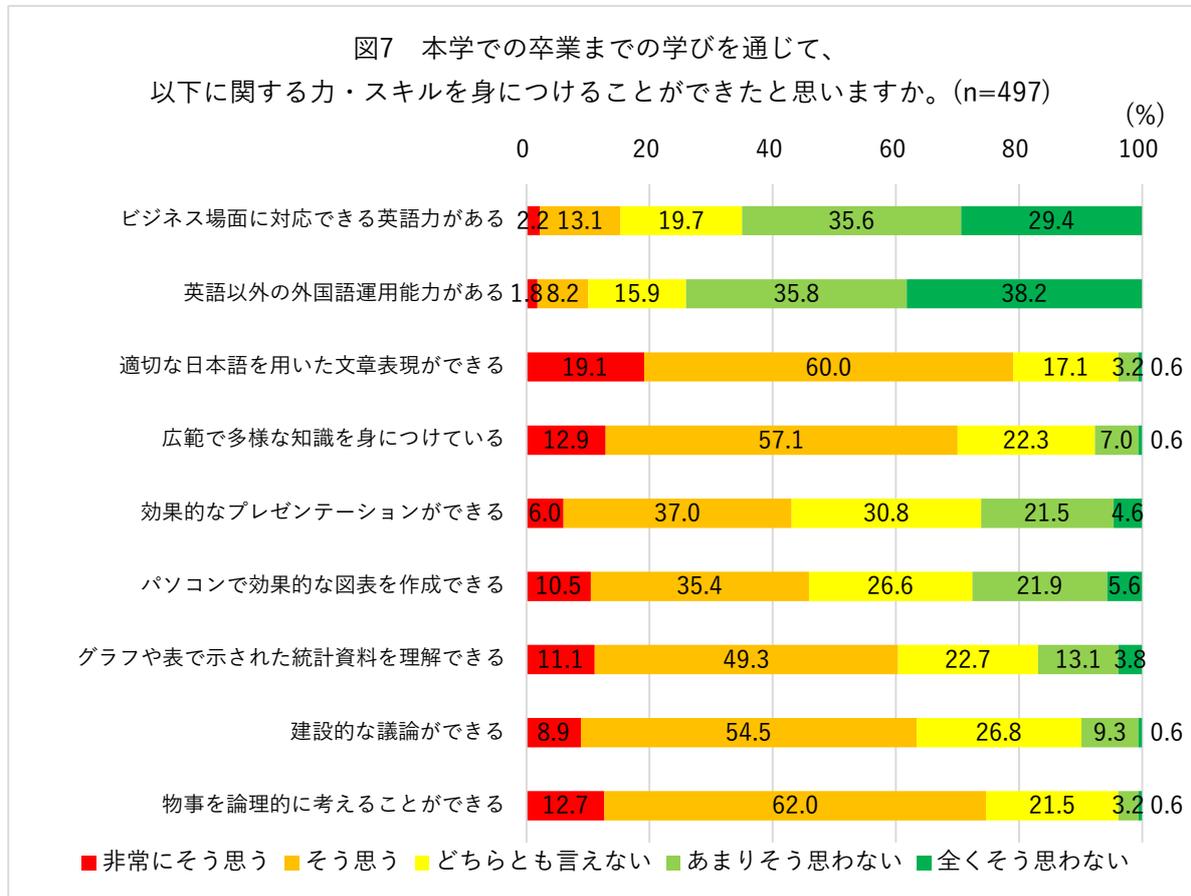
「身につけることができたと思う力」について尋ねた結果を図5に示す。「数字やデータに基づいて物事を考えることができる」「率先してグループをまとめリードすることができる」以外の項目で、肯定的な回答（「非常にそう思う」「そう思う」）が6割を超えた。例年と同様、「倫理観がある」が最も高くなった。



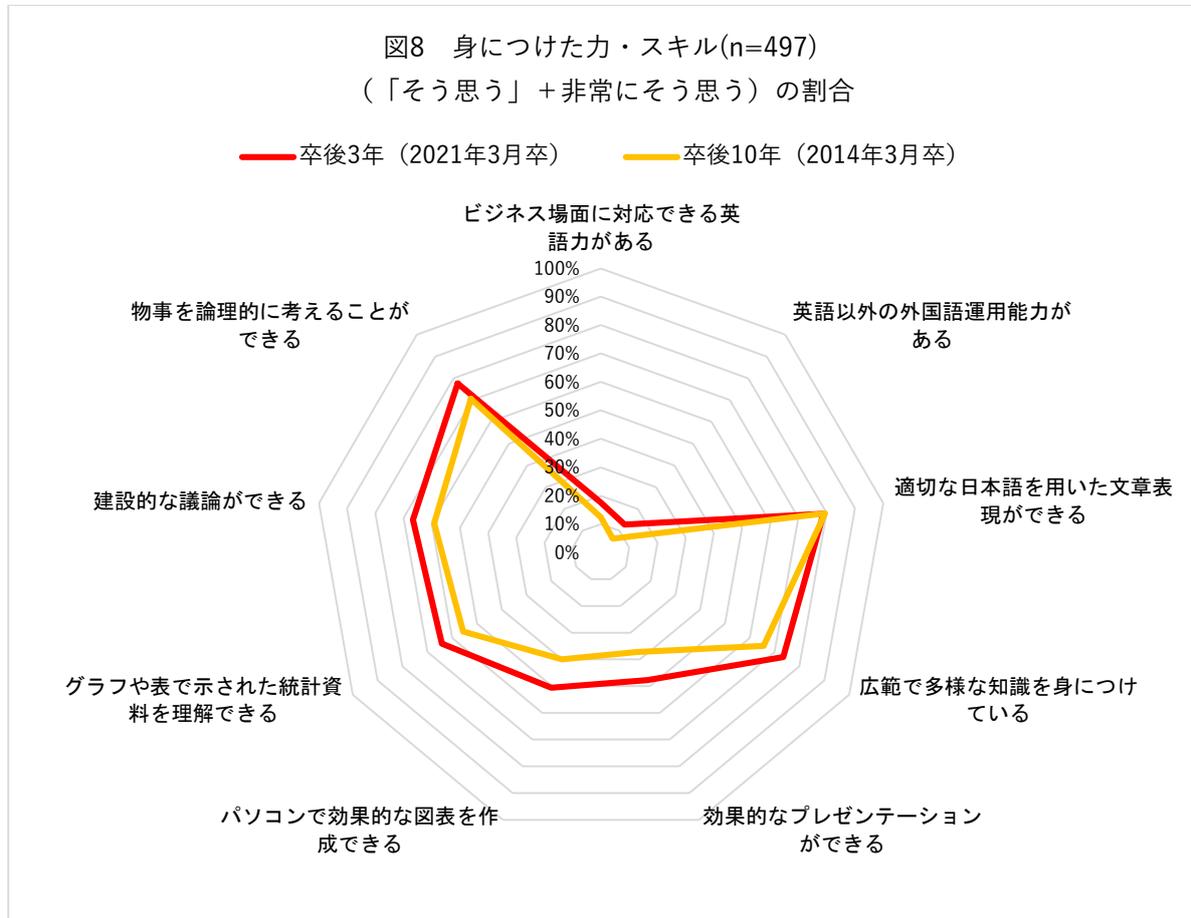
卒業年別で傾向を比較するため、「身につけることができたと思う力」の肯定的な回答の割合のレーダーチャートを作成した(図6)。「責任感がある」「人間関係を築いたり調整したりすることができる」が僅かに2014年3月卒の卒業生の方が高いが、他の項目は2021年3月卒の卒業生の方が高くなった。特に、「物事を偏りなく多角的に検討できる」で大きく差が開いた。



「身につけることができたと思う力・スキル」について尋ねた結果を図7に示す。「適切な日本語を用いた文章表現ができる」「広範で多様な知識を身につけている」「グラフや表で示された統計資料を理解できる」「建設的な議論ができる」「物事を論理的に考えることができる」で肯定的な回答（「非常にそう思う」「そう思う」）が多く、6割を超えた。



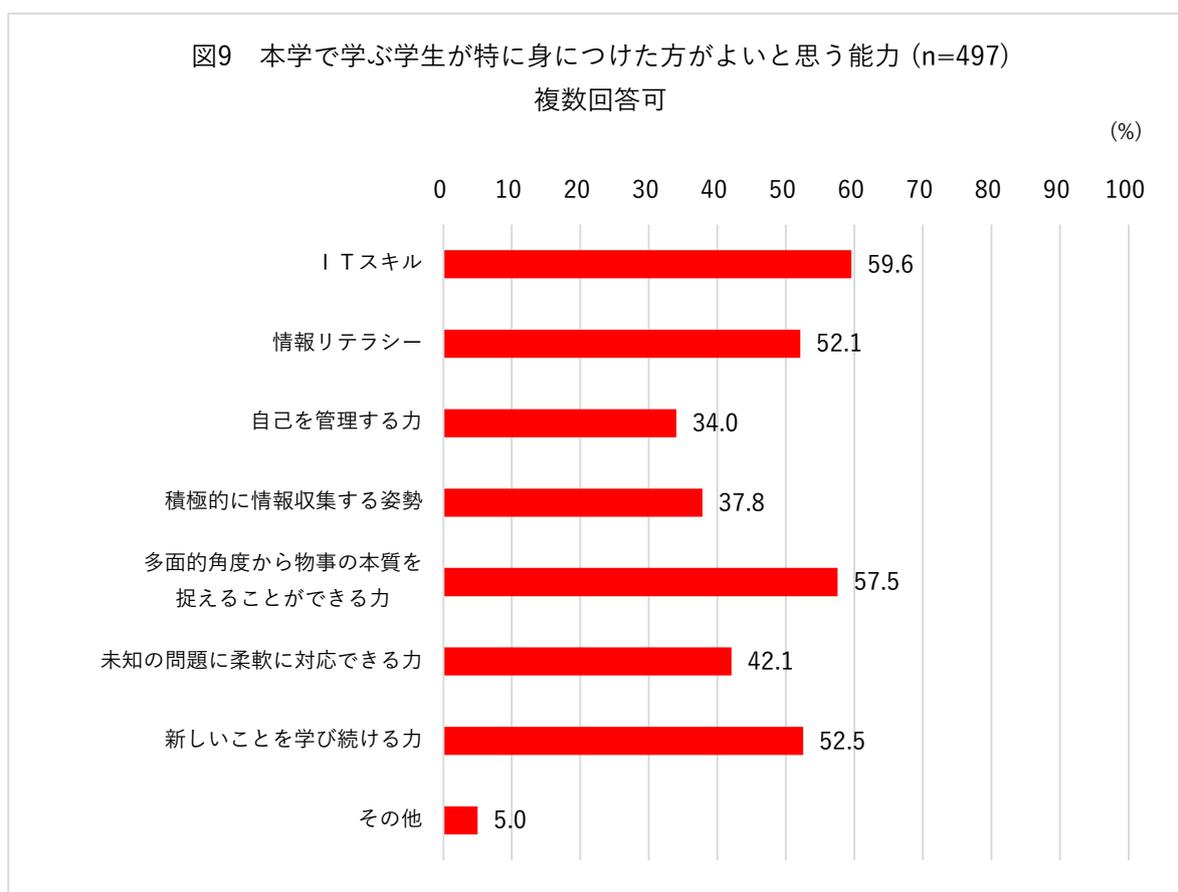
「身につけることができたと思う力・スキル」も卒業年別で傾向を比較するため、肯定的な回答の割合でレーダーチャートを作成した（図8）。「適切な日本語を用いた文章表現ができる」は2014年3月卒の卒業生が僅かに高いが、他の項目は2021年3月卒の卒業生が高い傾向にあった。特に、「効果的なプレゼンテーションができる」「パソコンで効果的な図表を作成できる」では10ポイント以上の大きな差があった。



2. 身につけたほうがよいと思う能力

「本学で学ぶ学生が特に身につけたほうがよいと思う能力」について尋ねた結果を図9に示す。

「ITスキル」「情報リテラシー」「多角的角度から物事の本質を捉えることができる力」「新しいことを学び続ける力」の項目では、5割以上が身につけたほうがよいと回答した。データサイエンスに関する回答は例年、上位に食い込んでおり、職種に関わらず、社会人として業務を遂行する上で重要なスキルであることが伺える。



「その他」

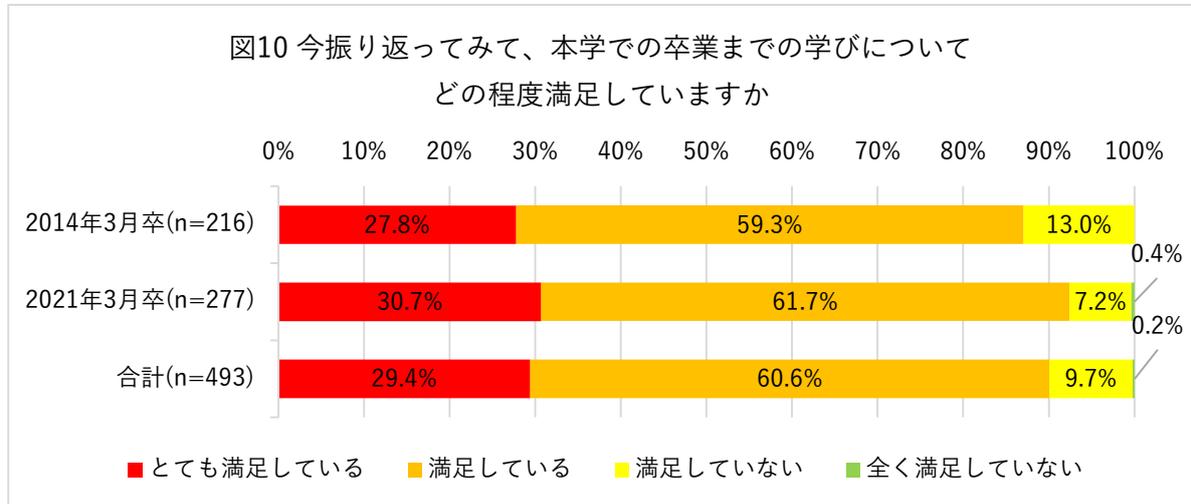
その他の具体例の記述には以下のようなものがあった。

- ・ 英語、ビジネス英語、英語力、英会話力 (n=6)
- ・ 語学力
- ・ 言語
- ・ 文章力
- ・ きちんとした日本語能力
- ・ コミュニケーション能力
- ・ 多様な人間関係に必要なコミュニケーション能力
- ・ 自分とは異なる考えを受け入れる力
- ・ 物事を的確に理解する力 (その姿勢)
- ・ 自分で課題を見つけ、解決する力

- ・ 付加価値を考え、生み出す力
- ・ 批判的思考力
- ・ 政治と個人の生活が無関係ではないという意識の醸成、社会で起こっている不正義や理不尽に対して声を上げることは正当な権利であり権威的な存在などに服従する必要はないと考えられる力
- ・ 学問としての女性学（フェミニズム）
- ・ キャリアをデザインする力（特に自己理解）
- ・ 自身の価値観や信念を確立する力
- ・ 自己内省力。自分が何が好きで何が嫌いなのか。どういったことが得意なのか。自分の価値観はどういったものなのか、感情はどういう時に揺れ動くのか。
- ・ 自分を大切にする力、自己肯定感
- ・ 精神安定
- ・ ビジネス、経営
- ・ ビジネスに関する力
- ・ お金にまつわる知識（資産運用や税金についての初歩的な知識。生きていく上で知っておく必要があるが意外と誰も教えてくれない分野だと思うため）
- ・ パソコンスキル（MOSなどの資格は、時間がある大学時代に取得することをおすすめする）
など

3. 本学での学修に対する満足度

「本学での卒業までの学びについてどの程度満足していますか。」と尋ねた所、図 10 の結果となった。肯定的な回答（「とても満足している」「満足している」）の割合が 2014 年 3 月卒では 8 割、2021 年 3 月卒では 9 割を超えた。



4. 本学の教育成果

リベラルアーツ教育

「本学は『専門性を持つ教養人』を育成すべくリベラルアーツ教育を行っていますが、卒業後にどのように活かされているでしょうか。」に対する自由記述を「肯定的」「否定的」「肯定的+否定的」「その他」の4つのカテゴリに分けた結果を以下に示す。

肯定的 (n=110)

(正式名称を失念してしまいましたが)所謂「一般教養」の単位を取るため、文系学部でも理系講義を選択できたのは、科学リテラシーの向上に繋がったと思う。
「正解」だけを求めない大学教育であったと思う。多様な考えを尊重することができている。
「俯瞰して見る力」が身に付いたと思います。仕事柄、さまざまなバックグラウンドの人とコミュニケーションを取る機会が多く、自分の価値観に捉われすぎないように心がけています。
1つの専攻に所属していても、その専攻の色々な分野の授業を受けたことにより、色々な分野に興味を持ち、多角的に考える力が身についた。そのおかげで、昨今は新型コロナや、能登半島地震等の災害、物価高など情勢が不安定な部分が多いが、ニュースを色々な角度から知り、どうしていくのかということを考えるようになった。
ITスキルは現在の仕事に活きていると思います。
さまざまな事情を抱えた人がいる事への理解が深まり、変に自分を被害者意識することなく、相手のことを考えた行動ができるようになった。
サラリーマンとして、想定外の仕事を割り振られた際にも、順応して対応することに活かされている。
ジェンダーについての授業によって、人のあり方や考え方は、限られた分類の中のみあるものではないと知った。また、身体的なこと以外及び貞操観念に関わること以外は、性別によってなにかを判断することはあるべきではないと考えるようになった。
マーケティングに関わる仕事をする際に、ゼミで学んだ知識が活かされていると感じている。
まず、私はジェンダーに関わる授業を受けていたことが、社会生活に繋がっていると思います。会社では、(当人に悪意はなくても)女性蔑視的な発言や、セクハラ発言(結婚した方がいい・子供を産んだ方がいいなど)が見受けられます。もし、大学でジェンダーの勉強がなければ、差別的な発言などに対して疑問に思わず、当たり前のことのように受け入れていたのではないかと感じます。また、専門外であった日本文学や日本語表現の授業など、様々な分野の授業を取っていました。仕事だけではなく、日常生活の中で、その学んだことを思い出す機会が多々あるように感じます。
ものごとを多角的に見るようにしている。
より幅広い分野に興味関心を持てるようになった。
リベラルアーツだったからこそ、様々な分野を学ぶことができ、あらゆる分野に対しての関心が高まった他、視野が広がったと思います。

<p>リベラルアーツで色々な分野を学んだため、卒業後も分野に囚われず色々なことに興味を持って取り組める（仕事で自分にとって新しい分野を学ぶ必要があるときでも、怖がらずに好奇心を持って学べるため、仕事をする上で役立っています）。</p>
<p>リベラルアーツのおかげで、自専攻の学びに限らず他分野の視点を持つきっかけとなりました。物事の本質を掴むためにはただ一つの点だけでなく多角的に見る事が大切だと考え、様々な意見や考え方を取り入れ自身で選択することができているように思います。</p>
<p>リベラルアーツ教育により、専門の知識を学びつつ、様々な学問を幅広く学ぶ機会が得られた。たくさんの学問を同時に学んだ経験が、社会に出たらはマルチタスクとして活かされていると思う。</p>
<p>リベラルアーツ教育の1つである全学共通カリキュラムを通して、多角的な分野の知識を得ることで物事を検討する際に様々な面から物事を検討できるようになりました。そういった場面で活かされていると思います。</p>
<p>リベラルアーツ教育は自分の専門と絡めて、他の学問についても関心を持って学ぶことが出来たように思います。自分の専門性についても幅広く、かつ専門的に学ぶことができ、大学院進学と専門職への就労に活かすことができました。</p>
<p>リベラルアーツ教育を通じて得た、物事に対して多面的に考えられる力は、社内でのリスク回避や業務効率化案を検討する際に活かされていると考えています。</p>
<p>異なる価値観や文化をリスペクトできるようになった。そのため、社会生活において多様な人々と意思疎通が容易になった。</p>
<p>医療職につき、医者や検査技師、栄養士、病院事務など様々な他職種の人と親しくなる際に、色々なことを大学で学んだことが話の引き出しとなって活かされていると思う。</p>
<p>一般的に心理学含め、全ての学問領域が直接的に生活や仕事に影響することは多くはないと思います。それでも、社会の動きを知る上で、知っている方が理解が捗ったように感じます。</p>
<p>営業職に就いておりますが、幅広い視野でお客様の悩みに柔軟に対応できていることが活かされています。</p>
<p>英語だけでなくジェンダーや人種差別、歴史を学んだことで世界情勢やニュースにも理解度を高く保っている。また様々な事に興味関心が持てるようになったと思う。</p>
<p>何においても多様性の時代と言われる中で、自身の経験や知識から来る考え方や枠組みに囚われることなく、様々な側面から物事を捉えることで広い視野を持てるようになった</p>
<p>何事も苦手意識を持たずやってみる姿勢を持っている。</p>
<p>学びを楽しんでいること。</p>
<p>学び続ける姿勢。</p>
<p>学生時代に学んだことから派生して興味を持って新たなことに興味を持つことができている。</p>
<p>簡潔な英語で物事を伝える力は培われたと思います。</p>
<p>企画の仕事をする際、幅広い分野からアイデアを出せているように思う。</p>
<p>教員として働いているため、身につけた専門性は授業の実施に際して活かされていると考える。</p>

<p>教員をしておりますが、中学生の英語の教科書には、様々なトピックが出てくるので、大学で学んだことが活かされる場面が多々あります。また、調べる力は大学在学中に身につけることができたので、その点においても役に立っています。</p>
<p>教養を幅広く身につけられたことから、社会に出た際、会社でも上司との会話についていくことができる。</p>
<p>興味のある分野を追求して学べたことで自分の興味関心に自信を持てるようになり、社会人になった今でも仕事においてその探究心を持ち続けられている。</p>
<p>興味の幅が広がりました。環境問題や人間のことを同級生と日頃から話せた環境は、東女だからこそでした。今思い返しても大事な時間です。</p>
<p>興味関心に偏りなく学ぶ姿勢を持てている。</p>
<p>業務で関わる人の立場や背景を考えて、信頼関係を築くことに活かされています。</p>
<p>業務で必要な情報を自発的に収集できる。</p>
<p>現在、心理職として働いているが、心理のお仕事のみならず、他の資格のお仕事についても把握するようにしているところで活かされていると思う。</p>
<p>言語科学を専攻し、正しい日本語、使い方、受け手の心理を勉強したことで関係先に言葉遣いを褒められる事が多いと感じる。</p>
<p>言語学の知識を活かし、印刷所で校正の仕事をしていました。また、日本語検定 2 級を取得しました。</p>
<p>広い視野を持つことができる。</p>
<p>高校で英語の教員をしていますが、大学で学んだ言語学の知識が活かれていると感じます。</p>
<p>国際関係専攻卒業後、直接関係の少ない SE として働いていますが、課題に対する考え方や対処方法等、大学時代のゼミの課題や論述課題で自分の考えをまとめて、文章で表現するというのは仕事にも活かれていると思います。</p>
<p>国内外問わず接する人と相手の文化価値観を尊重しながらコミュニケーションを取ることができる。</p>
<p>国立大学に再入学した際に、取得単位の認定がすんなりおりたこと。</p>
<p>在学中には女性学やジェンダー学とかに力を入れて学んでいました。企業で働く中で、男女共に働きやすくするにはという観点で周囲をサポートしたいと考えながら働くようになりました。</p>
<p>仕事で自主的に動いたり、意見を言う時に活かされていると感じる。</p>
<p>仕事をしていく上で物事を論理的に捉えたり、偏った思考にならず柔軟に対応できる場所は活かされているのではないかと思います。</p>
<p>史学専攻を卒業し、会社員として働いていく中で活かされることはあるのだろうかと思っていましたが、学生時代に問題提起に対しての根拠集めで培った資料を集め、的確に判断する力、情報の取捨選択をする力やゼミでの活動を通して培った根拠を元に議論する力は今の仕事でも役立っています。会議資料作成や商談での提案書作りなど、人を説得する上で必要な情報の選び方の基礎を卒論などを通して学べたと思っています。</p>

視野が広がったため、様々な分野の情報にアンテナを張るようになった。
視野が広がったので、色々な視点から物事を考えられるようになったと思います。
視野が広がっていると思う。
視野が広がったことで、卒業後の進路も自分なりに色々な道を考えることができた。卒業後は専門学校に通い資格を取り仕事に活かしている。
自身は日本文学専攻だったが、多学科、他専攻科目の授業を履修したことによって、現在も興味の幅が狭まらずに視野を広げ続けることができているのではないかと思う。
自専攻以外の授業も多く受講していたため、教養という部分がとても深まっていると日々実感します。
自分から学びを得る姿勢を活かすことができています。
自分の専攻だけでなく、他の興味がある事についても学べたのは良かった。使わないと思っていた知識が役に立つ場面もあった。
自分の専攻以外の科目も学べたので、授業の際に役に立っている。
自分の専門分野以外のことでも興味を持って話を聞くことができる。そのため、さまざまな事柄について知識を持つことができる。
社会に出ると実に多種多様な方と交流の機会があり、大学で身につけた様々な知識はそういった方々とのコミュニケーションに役立っていると思う。
社会学や経済学など、いろんな分野に触れたことにより、総合的な思考をできるようになったと思います。
就職してから会社の中での振る舞い。
上司や役員との会話や食事の機会でも、会話に困らずコミュニケーションを楽しむことができる。
常に学び続けようと自己研鑽に励んでいる。
色々なことに興味を持つこと、行動することができ、私生活が豊かになった。幸せに過ごせている。
心理学は今の仕事に活かされているわけではないですが、品のある人間に成長できていると思う。
心理学専攻で学んだ、人の心理を行動から察する力は、社会人になってからの顧客と関わる場面や上司、チームメイトと関わる場面で活かしています。
新しい事に出会った際に、大学で学んだ色々な教養と結びつけて理解を深めることができた。また、困難な状況でも、大学で得た知識と絡めて問題解決ができた。
深みのある会話ができるようになった。
人間としての教養をベースに心理学の視点を持つことができています。
人間関係の構築等。
世界のニュースや文化的事象の背景に哲学、宗教、神話の存在を感じとることができる。それは本質を見抜こうとする力であり、いわゆるフェイクニュースに騙されにくい体質を作っていると思う。
専攻の科目以外の分野についても広い視野から考えられるよう工夫する癖がついた。

専攻以外でも学科内の他専攻の話題やジェンダー、女性学に基礎的な理解があるため社会人の先輩方の話題についていきやすい。
専攻以外の教養科目の経済の授業で学んだ知識を現在の業界（金融業界）で活かしていると思います。
専攻外の興味がある授業も取ることができたのでそのことが自分の研究に思わぬ形で役に立ったことがあった。そのことから自分の仕事の範囲外のことも積極的に学ぶことに拒否感がなくなり、どんどん新しいことを知ることに活かされている。
専門以外の分野にも興味を持てるようになった。
専門性を持つためには、専門的な事柄だけでなく幅広い知識が必要になるため、仕事においても選り好みせずまずはやってみるという姿勢で取り組んでいます。
専門的な職業において、それらを発揮できる。
専門分野以外についての知識も得られたことで、専門分野以外の分野の知識が必要な場面で全く理解ができないということがない。
卒業後は他分野の短期大学部へ進学し、資格を取得した上で就職をした。 リベラルアーツ教育を通じて、学び続ける姿勢や好奇心が育まれ、卒業後も自己成長を続ける力となった。
卒業後も、興味のあることに積極的に学ぼうという姿勢が続いている。
卒論ゼミでは、研究テーマの探し方や決め方、卒論の書き方、取り組み方の指導を通して、広い関心をどう1つのテーマの論文として落とし込むかを学んだと思う。研究を続けている今も参考になっている。
卒論は仕事の中でも役立つと感じる。
多角的な角度から物事を捉えることができる。
多角的な視点から物事を見ることができるようになった。
多角的に物事を検証する姿勢、様々なものにアンテナを張る姿勢は、仕事(特に新規事業)を進める上で活かされているように感じる。
多様な意見を聞き取り、主体的に考え、客観的な判断をする態度を育成していただいたことで、時世を観る力を持った。
多様な視点、寛容な心を持って仕事ができている。
大学1年生の時からリベラルアーツ教育課程として、様々な講義を受けることができました。 幅広い学びを得たことで卒業後も専門性を持ち社会に出ることができました。
大学で学んだこと以外のことも、専門性を常に追求することの大切さを無意識に持って仕事ができている。
大学入学前に比べて専門性の高い分野に興味を持つようになりました。その分野の背景を知りたいと思ったり、専門性を高めたいと思うようになったのは東京女子大学に在学したからだと思います。
知識を持つことによって、多面的に物事を捉えたり、課題に向き合うことができている。

東京女子大学で専攻していた学問とは直結しない仕事に就きましたが、大学で学んだこと、考え方が自分の礎になり、一種の誇りのような形で自分を支えていると感じています。
読書等、現在も続けられる学びによる余暇の時間の充実。他者と会話する際の話題や意見、考え方の充実。
幅広い知識を得ることができた。
幅広い分野に関心を持つようになった。
幅広く学べたため、臨機応変な対応ができた。
物事に対して、人に頼らず、しっかりと自分の意見を持ち、発信する、という主体性と積極性を身につけられたと思う。
物事を多角的に見る姿勢が、人間関係の構築はもちろん、業務の課題特定や解決策の検討に役立っています。
文系専攻でも、その他の専攻知識や、情報など、理系学問も学ぶことができる。
本学4年間の学びを通じて興味分野が定まり、卒業後は大学院に進学した。
本学で得た知識を活かし、正しい情報を精査して物事を判断することに活かしている。
本専攻では常識を疑う姿勢、副専攻（キリスト教学）では物事の本質に気づこうとする姿勢を学びました。専攻内容を直接仕事で活かせることは無いですが、学びの中で得た姿勢は、仕事の向き合い方に活かされていると思います。
様々なことに対して興味を持ち調べ、日々を豊かにする点で役に立っている。
様々なヒト、コトに対して、意思を持って対応できる柔軟性が身につき、様々なコミュニケーションに役立てられている。
様々な知識やそこで得た教訓のひとつひとつを手繰り寄せて問題を発見し、解決することができる。

②否定的 (n=5)

あまり活かせてるとは思えない。
あまり活かせていない。(n=2)
専門性や教養は身についたと思えない。
特に活かせていません。

③肯定的+否定的 (n=6)

学問を横断的に学び、広く浅い知識を得たことで、物事を多面的に見る意識は身についたと思います。
仕事では大学で学んだこととは全く異なる分野に進んだため活かせているとは感じられない。ただ普段の生活の中で、大学で学んだからこそその視点で情報を収集、分析して日常的に物事を深く考える癖がついたので、そういったところでは活かせていると感じる。

自身が専攻した学問以外のことも広く自由に学ぶことができたので、広く物を知ることが出来たという実感がある。仕事で取引先と話す場面で、相手の専門分野についてかいつまんだ知識だが確かに知識として頭に入っているので、理解不能な会話にならないで済んだケースが多々ある。広く浅い知識でも絶対役に立つ。専門家ではないのだから、とりあえず知っていることが大切だと強く感じている。

自分の出身専攻が、なかなか社会に十分活かしきれない特色があるので仕方ないと思いますが、学んだ内容が仕事で活かしきれないと感じています。ただ、人生を豊かにできたと思います。

専攻とは関係がない職に就いたので大学での学びが活かしているかと言われると微妙ですが、日常会話やテレビを見ている時などでこれ大学で聞いたなとなることはあります。そういう時、最低でも理解の足がけになってその話題が楽しいと思えます。

卒業後にそれほど活かしていると感じたことは正直ありません。しかし、色んな授業を自由に取ることができたので、そういった意味でのリベラルアーツ教育を受けられたことは非常に良かったなと思っています。

④その他 (n=4)

心理学の専門職として勤務しているが、通常の事務業務も行っている。

臨床心理士と公認心理師の資格を取り、心理職として働いています。

特になし。(n=2)

知識・能力・スキル

「本学での卒業までの学びを通して身につけた知識・能力・スキルのうち、特に社会で役立っているものがあれば教えてください。」の設問に対する自由記述を、「知識」「能力」「スキル」「その他」の4つのカテゴリに分けた結果を以下に示す。1つの記述に複数のカテゴリが入っている場合、該当箇所を分割して記載している。

①知識 (n=29)

LGBTQ、性教育、メンタルヘルス。
SNSで広がる“フェミ”的ではない女性学の考え方。
ジェンダーに関する知識、心理学的な現象・考え方が特に役立っています。社会人になって様々な方にお会いしたり、社会で起きたニュースを目にしたりしました。それらを自分の「ものさし」で捉え言葉や行動にするのではなく、背景を考えてからアクションを起こせるようになったのは、大学での学びがあったからだと思います。
ジェンダーの話。
ジェンダー学を必須で学んだことで、女性のあり方や社会的立場についてよく考えるようになりました。
ジェンダー教育。
女子大ならではの性教育やジェンダー等はとても良かったです。
女性としてどのようにキャリアを築いていくのか。そのスキルと心得。
女性学の学びが特に役立っていると感じています。
女性学やジェンダー学でM字就業率や産育休取得など女性が働く上での問題点などを学んだことで、権利として認められていることも周囲と円滑な関係を築きつつ自分が仕事を続けていくにはサポートする側や権利として産育休を取得する女性側もお互いが周囲への配慮を一番意識していくべきだと実感しました。基礎知識として在学中にこれまで女性が働くために悩んできた問題を学べたからこそ、より職場で円滑な関係を築くための心づもりができました。
キリスト教学の講義です。 私は、落ち込んだり後悔することが多い性格で、沈んだ時に今でも講義や礼拝をよく思い出します。聖書の中の言葉を、日常の出来事に置き換える時間が、心が穏やかになるのを助けてくれます。
基礎的な心理学知識。
教員の仕事においては、学んだ専門分野は自分の授業や仕事にも活かされています。
教養。結局のところ、社会とは他者に対するなんらかの表現の場なのだと思う。その表現の規範、効果を担保するものは、「これ」と指し示して伝えられるようなものではなく、長い時間をかけて学び、網目のように構築していくものなのだろう。東京女子大で教養の素晴らしさを説かれ、それを学びながら実感できたこと、今もそう思えることがとてもありがたい。
言語。
言語学などの知識。英語教育をする上で、非常に役立っている。

言語学の知識。
最近日本語教育の話が出る人が多い(技能実習生や、インバウンドなどの影響から、定年後に日本語教員を目指している人や、海外で日本語教育に携わっている人に会うことがある)。
情報リテラシー。(n=2)
色々な心理学。業務で役に立っています。
心理学の知識は、社会に出て仕事を続ける中で辛い時、病んでしまいそうな時に自分の心を守るために役立っていると思います。様々な情報に溢れ、ストレスの多い現代社会においてメンタルヘルスを保つ能力は大事だと感じています。
数学の専門的な知識。
専攻の知識。
専門知識。
専門分野の学びを通して培われた教養。
東京女子大学ならではの、という意味で捉えられるかは分かりませんが、講義内で教授が仰られていた現代の社会問題についてのお考えが、自分が社会問題を考える時に非常に冷静に考える機会を与えてくださっているように感じます。
文化人類学の基本概念。
論理学の講義と、哲学の講義が大変勉強になりました。

②能力 (n=78)

分析力。
東京女子大学での学びを通じて養われた「自分で課題を見つけ、深掘りする力」が、短期大学部での専門的な学びにも繋がり、資格取得を目指す際に大いに役立った。社会に出た後も、変化に適応し、新しいスキルや知識を習得する際の基盤となっている。
専門分野の学びを通して培われた思考力。
自身の目的(大学であれば論文を書くこと)を叶えるためにはどんな情報をどの程度入手する必要があるかを考えて、実行し実際に上手く活用する能力は社会で特に必要であり役立っていると感じた。
問題発見・解決力。
考え方や情報収集の仕方。
自分自身で調べる力は役に立っていると思います。
収集した情報を取捨選択し、必要な情報を整理できる能力。
情報の収集方法や適切なものを選ぶ方法等のスキルが身につける事ができて、今も役に立ってます。
調べることへの億劫さなく、何事も気になることは調べてから、情報をまとめるようにしている。
調べる力。
調べ物をするときに、複数の根拠を集めること。

必要な情報を収集する力は役立っていると思われる。
複数になりますが、情報収集をすること、多角的に物事を捉えることが特に役立っていると感じています。
また、歴史学にどっぷり染まったおかげで、様々な史料を横断して調べるなど、多面的な視野は身についたと感じている。現在は異業種の接客サービス業についているが、顧客の立場を考慮した案内が評価されている。
資料を集めて結論を導き出す力。それに加えて導いた結論に説得力をつけるためにより強固な根拠資料を探す粘り強さ。
問題解決力。情報収集力。効率的に物事を処理する能力。
情報収集力。講義ごとの課題や学期ごとのレポートなどで、自身の知識や経験ではなく実験や歴史に基づいた論文から情報を得るという作業を行う中で、情報の精査ができるようになった。調べ方から、その情報の不確実性を見抜く術まで基本的なことが身についた。今社会人として働く中で、仕事をする際に分からない事を理解するために必要な行動が取れているのは、情報収集の術を学んだからだと思う。
自ら調べ、考えてアウトプットする能力。
興味関心のある物事に対して自分から情報収集してその中で課題を見つける姿勢が役立っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・意見を求められる場を予定している場合に、根拠となるデータや自分の意見をどう伝えるか事前準備をよく行うこと。 ・相手の意見を頭ごなしに否定しないこと。 ・学びたいという気持ちを持ち続けること、また自分自身も周りにも興味関心を持つこと。 ・「普通」を求めすぎないこと。
分からないものを調べる力や、ひとつひとつを投げ出さずに理解しようとする忍耐力。
多角的な視点で柔軟性を持って物事に対応する力は役立っていると思います。
多角的な物事の捉え方。
多角的思考力。
多方面から考える力。
物事を客観的に見る姿勢。
様々な視点から考える能力、分析力。
卒業論文で培った、①自ら問を立てて答を見出す力、②課題に向き合い成し遂げる力は、仕事をする上で役立っています。
統計分析や結果の見方、いろんな国の制度や事例等を学ぶことで、多角的に物事を見ることができるようになった。
多角的に見る力です。また、キリスト教精神により、自分を大切にすること他者を大切にすることを生きていく上で大変必要な材料になったかと思っています。

ジェンダー教育を通じて多角的に物事を見ることは身につき、社会に出て色んな立場の人と関わる上でとても役立った。
ゼミでの議論を通じて得た問題解決能力が現在も役立っている。
自ら考え、答えを導いていく姿勢。
<ul style="list-style-type: none"> ・マルチタスク処理スキル。 ・自ら考え抜いて、最善策を導き出し、実行するスキル。
「～～だから、～～」という言葉を見聞きしたときに、その因果関係が不自然ではないことを確認するようになった。
社会学を通して、何事も受け入れるのではなく、自分で考えてから結論を出すようになったと思います。自分で考える力は社会人になってからも役に立っていると思います。
常に疑問を持ち続け、問題をクリティカルに考える能力。
心理学を学んだ中で、「知らないことは素直に知らないと言うこと」「物事を多面的にみること」が社会で生活する上で役立っている。
数学を学び、証明をする際に教科書に書かれていることを含めて『行間を読む』ことを教わりました。そのことは未だに身につけており、物事を行間を読み考えております。
データの見方・活用の仕方。
データ分析(統計分析)、実験をもとに分析をし、グラフなど視覚的にまとめる力。
世相を統計、数理的に読み解く姿勢が実生活の様々な場面で役立っている。
統計学での分析スキル
知識とかは基本社会に入ってから学ぶことの方が多い。ただ、東女は1科目あたりの単位数の取得が他大学に比べて少ないため、授業をたくさん受ける必要があった。その結果、社会で重要な最後まで取り組む姿勢や、タフさ、勤勉さが体に染みついていく。
真面目に学ぶ姿勢。多くの学生は真面目に授業、課題に取り組んでおり、それが当たり前であることは貴重な場だったと卒業してから感じています。
責任を持って仕事を遂行する力。
犠牲と奉仕の精神。自分が社会にどのように還元できるかを考えて行動できる。
女性の為の教育課程やキリスト教教育で学んだ知識は、多様な考えを持ち社会に貢献できる力を育ててくれたと思います。
他者との調整能力。
過去の価値観にとらわれず、自分で考えて生きる力は大学4年間を通して身につけられたと思います。
自分でやりたいことに合わせて行動する精神、能力は役に立っていると感じる。
自分の意見を言ったり、能動的に動く力。少人数、女子学生だけ、という自分にとって安心できる環境で学んだ経験が、奥手だった自分を変えてくれたと思っています。自信がついて、卒業後は様々な人がいる場でも、自分らしく行動できるようになりました。

<p>自律心と女性の芯の強さ。高校時代まではさまざまな場面で男性に埋もれがちだったが、女子大で学んだことにより積極性や議論に参加する力、前に出ていく強い心を養えた。これまでの人生においていかに男性に依存していたかを知り、自分で動く、解決する力が自然と身についた。</p>
<p>自立した女性として生きる意識。</p>
<p>女性管理職として部下をまとめる力、率先垂範する力が役立っております。</p>
<p>上記と重複するが、営業職に就いたこともあり、まだまだ男性主体の業界ではあったが、「男性・女性だから」ということ関係なく、しっかりと自分で考え発信するという主体性と積極性は、仕事をする上でとても大切であり、特に女子大だからこそ身に付けられたことであると思う。</p>
<p>人から言われて何か行動するのではなくて、自主的に自分で考えて行動に移すことができる能力は、仕事をする上で役立っていると強く感じる。</p>
<p>性別に関係なく、仕事をする力。現代でも、まだまだ男性主体の社会構造だと感じる。女子大学だからこそ、男性社会でも生き延びる力を学べたと思う。その点は、女子大学ならではの強みだ。</p>
<p>ゼミを通して学んだ【女性の生き方について】が今後の自分の人生について考える大きなきっかけになり、今の仕事を選んだ理由にも大きく影響していると感じます。男女平等や女性が活躍する社会が謳われる社会になってきたからこそ、自分に合った働き方で主体的に生きることが大切だと思いますし、女性しかいない環境の中で自分を律して生活した4年間での経験が今の自分にも活かしていると思います。</p>
<p>自分から動き出す力。落ち着きを持って行動する力。</p>
<p>学ぶ意欲。</p>
<p>在学中は自分の興味のある授業を幅広く選択し、自由に学ぶことができ、自ら学ぶ姿勢が身についた。社会に出てからも異動などで環境が変わるたびに学びの機会があり、大学で培った力が活かされていると感じる。</p>
<p>新しい学びに挑戦する好奇心。やり切る力。</p>
<p>探究力。</p>
<p>分からないことでも粘り強く学習し、身に付けていく姿勢。</p>
<p>専門分野で身につけた、粘り強く課題に取り組む姿勢は役立っていると感じます。</p>
<p>ジェンダー、男女平等に関しては入学時と卒業時では問題に対する解像度が上がった。</p>
<p>異文化を理解する力は、他者を理解し受容する上で、役に立っていると感じます。日本国内の中で、同じ国籍でも、結果他人ではあるので、海外の人に対して身につけてきた力、相手を理解し受け入れようとする力、受け入れるまで行かなくても、認知する力は、働く上で他者と接する上で活かされていると思います。</p>

学部時代から大学院まで、日本語教育の分野で学びを深めました。「日本語教育」とは、いわゆる外国人のための教育だけではなく、多様な方々（海外ルーツの方、障害がある方など）との共生につながる教育であると感じています。このような気づきができたのは、東京女子大学で日本語教育を学んだからだと強く思います。今後も多様化する社会で、東京女子大学での学びは生きていくと心から感じています。
日本語教育課程で学んだこと。今勤めている会社で外国の方(特にアジア)と接する上で自分の基礎になっていると強く感じます。
日本語教育学を学んでいたため、日本で働く外国人への接し方や考えた方など、多様性を意識して社会で生活することができているなど感じています。4年間の学生生活の中で日本語教育学を学べたことは、私の中でとても良い経験だったと思っています。
様々なバックグラウンドを持つ人と抵抗なくコミュニケーションがとれる能力。
他者を認める心。謙虚な姿勢。
スケジュール管理能力や物事に優先順位をつけて計画的に進めること。
編入生だったので、2年間という短い期間で効率的にやる力。
真面目さ。
分からないことや知らないことを、真剣に考える力。

③スキル (n=80)

論文を読む力。
表現への分析的思考・考察力。
1. 大量の文章を読む力。2. 論理的な文章を書く力。
文章を書く力。読解力。
キャリアイングリッシュ課程を履修し、プレゼンテーション等発表の機会が多くあったため、急に自分がチームの中で発表をしなくてはいけない時にその経験が活かされていると感じます。
プレゼンテーションのスキル。(n=2)
プレゼンテーション能力です。元々発表は得意な方でしたが、ビジネスプランニングコンテストに参加したり、授業で発表したりすることが多かったので、そのスキルが身についたように思います。
プレゼン能力です。ゼミで毎週のように行っていたプレゼンのおかげで培われ、社会人になってから社内のプレゼン大会で前例のない最優秀賞を受賞することができました。
卒業論文で1年間鍛えられたおかげか、日本語で文書を書くスキルは同年代の中でもできる方だと思う。またゼミや専攻の授業でプレゼンをする機会が多かったので、プレゼン慣れした状態で社会人になれたのは良かった。
情報の授業で、パソコンのスキルや仕組み（二進法など）、社会調査士の履修をしていたことで、その知識が役に立った。例えば数値化してのプレゼンなど。

ゼミで毎週行っていたプレゼンテーションや授業でよく行っていたグループワークのおかげで、職場でも同僚と協力して仕事を行ったり、言われればすぐにプレゼンテーションのスライドを作ることができています。
プレゼンテーション力。対人関係を円滑に進めること。
協力してなにかを作り上げる力は社会に出てからも活かされています。また、PCに触れる機会が多く、プレゼンの機会も多かったため活かされています。
多量の情報を処理してプレゼンを作る等。
プレゼンテーション能力、英語力。
プレゼン能力。英語能力。
英語学習におけるプレゼンテーションスキル。
英語力、人前で話すプレゼンテーション力。
キャリアイングリッシュアイランドで身につけた、順序立てて話したり印象的に伝えるスキル。
キャリアイングリッシュコースで学んだ論理的に考え意見を述べるスキルだと思います。
ゼミで培ったとことん考え、議論する力です。
建設的な議論をしたり、論理的な討論、説明ができる。
萎縮せず自分の意見に自信をもって議論できること。
議論は論理的に根拠資料を元に繰り広げること。
講義後にコメントシートを書く習慣があったことで、社会に出てからも常に自分の意見を持って発言することができるように思う。
非常勤講師として高校地歴公民を5年ほど教えてきた。教員養成においては、授業の要点、強調すべき点を如何に伝えるかが鍛えられたと考えている。
論文課題等に数多く取り組んできたため、論理的思考力が身に付いた。仕事をしていく上でも活かしていると思う。
論理的な文章を書く能力。
論理的に組み立てて、発信する力は役立っていると思われる。
ディスカッションのスキル、ITスキル。
より多くの人に伝わるように、相手に合わせて語彙や表現を変えるスキルが役立っている。
課題レポートや卒業論文で身につけた文章構成力。
学生時代、論文作成に非常に苦労しました。社会に出ても、私は、文章を作成する機会がありますが、その時の苦労が活かされてると思います。文章を論理的に組み立てる能力が特に役立っていると思います。

敬語について、自身の卒論のテーマにしましたが、10年経った今現在も変わらず役立っています。
考えを分かりやすく文書にする力。
書籍を中心として調べて自分の知識・見解を作り出し、アウトプットとしてレジュメやレポート、論文としてまとめ発信する力は、仕事においても私生活においても役に立っていると思います。
卒業論文で培った文章力が、顧客とのメールのやり取りに役立っている。
卒業論文作成において、構成の考え方やどのように進めたら良いかについて、学んだことは現在活かされてるかなと思います。
日本語の使い方について、授業や卒業論文で学んだのが役に立っていると感じる。
文章や考え方の構築の仕方が大変役に立っています。
文章作成のスキルが特に役立っています。レポート課題や卒業論文の執筆など、調べたことや考えたことを文章にする機会が豊富でしたので、文章を書くことに対するノウハウが身についたと感じています。
文章力。
文章力、情報リテラシー。
卒論・インタビュー調査。
パラグラフライティングなどライティングの知識。
ゼミを通じて論文引用の記載方法などは卒業後、会社での資料作成などに非常に役立ちました。
ITスキル。
パソコン。
パソコンスキル(Office、統計分析)。
プログラミングのスキル。(n=2)
Excelスキルを用いた課題解決力。いち業務をするにあたり、どのような情報が必要かを明確にした上で、データから欲する情報を集計し得られることはとても役に立っています。
統計を取り図表を作成していたので、Excelのスキルに少しだけアドバンテージがあったのは良かった。
コミュニケーションスキル。
コミュニケーション能力。(n=2)
コミュニケーション力。
ゼミでのコミュニケーション。

臨床心理分野では「傾聴」の姿勢を実践を通じて学んだ。社会人同士の対人関係において必要なスキルであると改めて感じている。
みんなの意見に対して否定から入らず、まずはそれぞれの考え方について聞く姿勢を持ちながら話を聞く力があるところは社会で役に立つと思う。
環境に合わせて柔軟に対応すること。
協調性。 (n=2)
協調性。グループで何か成し遂げる時、協力する姿勢。
傾聴力。
心理学の授業で学んだアサーティブコミュニケーションという考え方です。ディベートとは違い勝敗ではなく、「相手の意見を尊重しつつ自分の意見を主張する」というコミュニケーションの手法は、対人関係や仕事のやり方で悩んだ時に今でも思い出しています。
他人の話を聞く姿勢。
多様な人と会うことで、柔軟性が身についた。
様々な人とのコミュニケーション能力。
キャリアイングリッシュ課程での、生きた英語の学び。
英語。特に外国人教師の授業を受けていた経験は、社会に出て外国人の方とコミュニケーションを取る時の緊張感を和らげてくれたと思う。
英語の授業におけるリアルなコミュニケーションを重視した内容が現在も役立っている。
英語。 (n=4)
英語力。
スペイン留学。
落ち着いた環境の中で勉強や人との関わりを持てた。何事も落ち着いて冷静に対応できるスキルは役に立っていると思う。

④その他 (n=9)

コロナを言い訳にせず真面目に勉強に勤しめば良かったと悔やんでおります。また、学生のうちに興味を広く持ち見識を広めるべきでした。
さまざまな課程における失敗が役に立っている。
女性のみ環境だったので、さまざまなライフコースにおける悩みや葛藤を共有できる仲間ができたのはよかったですと思います。
卒業論文を書き上げて提出したという自信。
男女平等に向けて。
特になし。 (n=4)

5. 卒業後の状況

卒業後の進路・就職先などについて尋ねた結果を図 15～図 20 に示す。卒業後は、約 9 割が就職し、そのうち 3 割近くが転職もしくは退職を選択した。その理由は、1 番が「職場とのミスマッチ」、次に「キャリア・アップのため」だった。現在の就業形態を尋ねた所、約 5 割「正社員（総合職）」、次に「正社員（一般職）」、3 番目が「正社員（専門職）」だった。

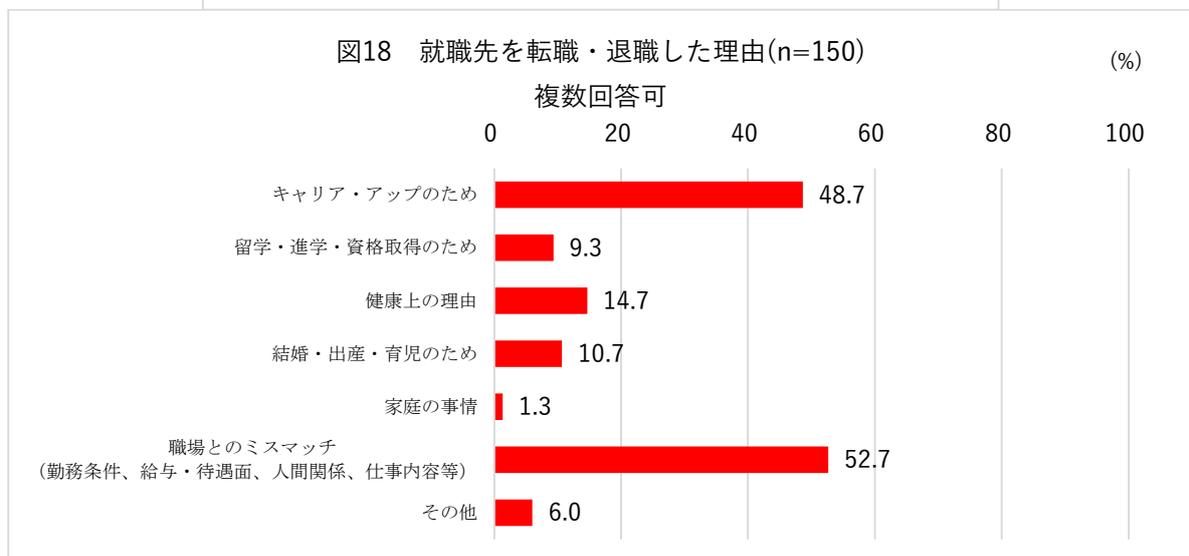
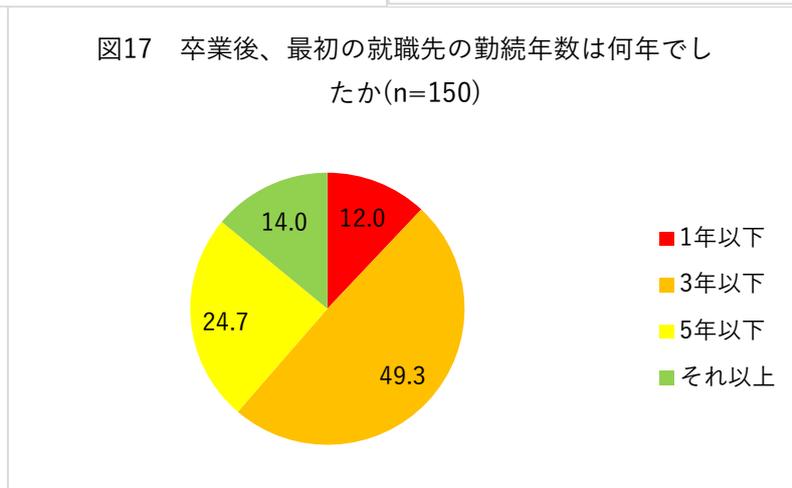
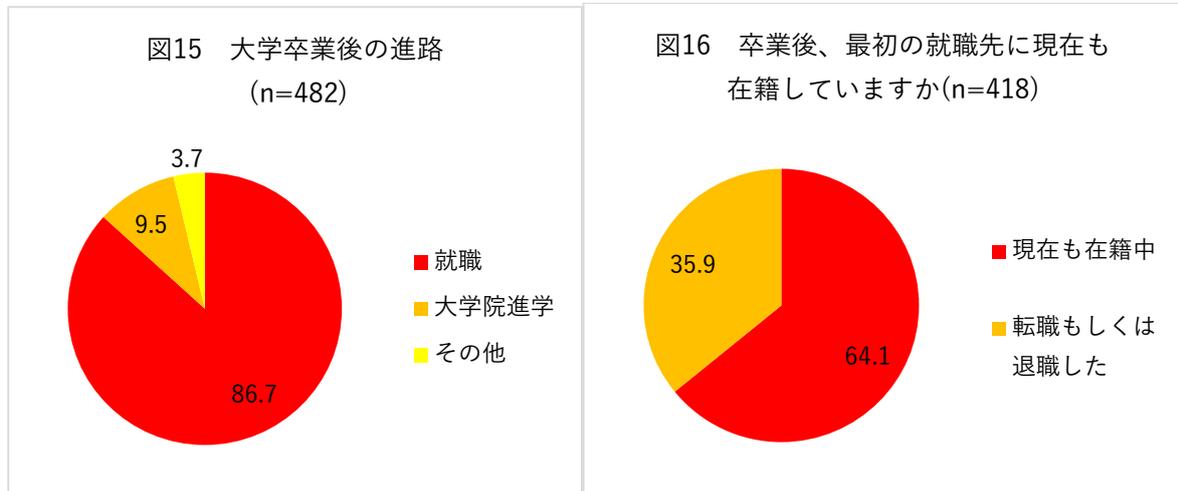


図19 現在、あなたは仕事に就いていますか
(n=150)

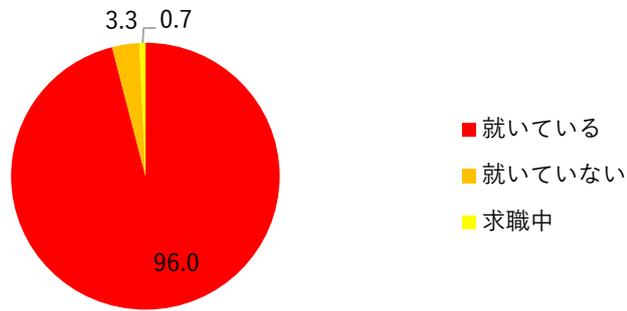
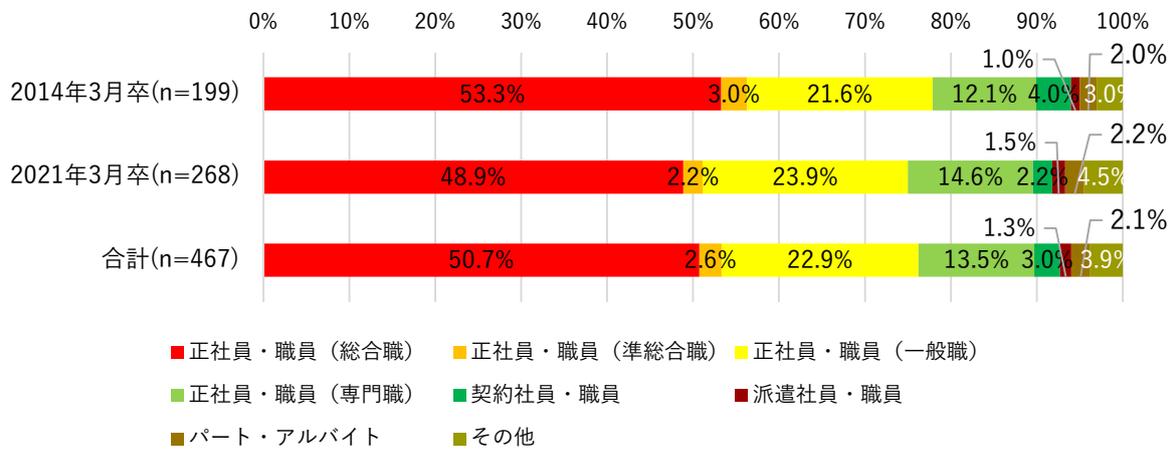


図13 現在の就業形態に当てはまるもの



「その他」

その他の具体例の記述には以下のようなものがあった。

- ・ 公務員・地方公務員
- ・ 教員
- ・ 個人事業主・フリーランス（イラストレーター・ダンサー）
- ・ 海外勤務（正社員・日本語教師）
- ・ 会社役員
- ・ 理事
- ・ 看護師

など